

# [解答例]

英語〔A方式(11/22)〕

英語〔B方式(11/22)〕

設問			解答例
①	I	①	1
		②	2
		③	4
		④	4
		⑤	4
		⑥	1
		⑦	3
		⑧	1
		⑨	1
		⑩	3
	II	⑪	2
		⑫	4
		⑬	4
		⑭	4
		⑮	4
	III	⑯	6
		⑰	2
		⑱	1
		⑲	3
		⑳	5
		㉑	1
		㉒	1
		㉓	7
		㉔	2
		㉕	8
②	I	①	1
		②	1
		③	3
		④	3
		⑤	3
		⑥	2
		⑦	4
		⑧	4
		⑨	2
		⑩	4
	II	⑪	1
		⑫	1
		⑬	2
		⑭	4
		⑮	1
	III	⑯	4
		⑰	6
		⑱	5
		⑲	2
		⑳	6
		㉑	8
		㉒	6
		㉓	4
		㉔	4
		㉕	8

設問			解答例
①	I	①	1
		②	3
		③	3
		④	4
		⑤	1
		⑥	2
		⑦	2
		⑧	4
		⑨	2
		⑩	2
	II	⑪	3
		⑫	3
		⑬	1
		⑭	2
		⑮	3
	III	⑯	7
		⑰	6
		⑱	2
		⑲	4
		⑳	4
		㉑	6
		㉒	7
		㉓	3
		㉔	6
		㉕	3
②	I	①	4
		②	3
		③	2
		④	1
		⑤	2
		⑥	2
		⑦	1
		⑧	1
		⑨	2
		⑩	4
	II	⑪	2
		⑫	4
		⑬	2
		⑭	1
		⑮	4
	III	⑯	7
		⑰	8
		⑱	6
		⑲	5
		⑳	8
		㉑	6
		㉒	2
		㉓	4
		㉔	4
		㉕	8

# [解説]

## 英語〔A方式〕

### 英語①

#### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「各言語の月の名前」。

(1)・(3)・(4)・(6)・(8)は、文脈を把握して空所を補う問題。(1)本文は言語ごとに異なる月名について説明しているの、「12か月のカレンダーは世界中で様々な形で使われている」ということが述べられていると考える。formsで「形」の意。(3)what we would callで「我々が言うところの、いわゆる」の意。(4)文脈から、SeptemberからDecemberまでの呼び名は古代ローマから変わっていないことがわかる。stillは「まだ、今もなお」の意。(6)空所の前ではクアチア語の月名は季節的な行事に由来していることが述べられ、空所の後はくだけた会話では数に由来した呼び方をすることもであると述べられているので、In addition「加えて」が入る。(8)insightは「洞察力」の意。

(2)・(5)・(7)は下線部の語句の意味を問う問題。(7)は下線部の指す内容を正しく把握する必要がある。

(9)は内容一致問題が2問。問題文で、選択肢のキーワード(特に名詞)が該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

#### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (10) on the Internet, on DVD, on TV, on the radio など、情報が記録・放送されている媒体には前置詞 on を用いる。
- (11) 理由を表す分詞構文。主節が現在形で、分詞構文内の動作は主節よりも先に起こったと考えられるので、完了形の分詞構文にする。
- (12) beyondで「～を越えて」の意。scopeは「範囲」。
- (13) get accustomed to～で「～に慣れる」の意。
- (14) whoeverで「～するだけでも」の意。

#### III

正しい語順は次の通り。

- (15) I would not (advise you to take this matter too seriously).
- (16) It is tough to reach such (remote places as small islands or sparsely populated) areas.
- (17) There are so many places to (visit in Kyoto that I cannot decide where) to go.
- (18) The roads will be (extremely busy as many workers will be finishing) work for their Christmas holidays.
- (19) Nara Prefecture is (very proud of having the world's oldest surviving) wooden buildings.

## 英語〔B方式〕

### 英語①

#### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「イントネーションが与える情報について」。

(1)・(3)・(4)・(5)・(6)・(7)は、文脈を把握して空所を補う問題。(1)get O acrossで「Oをわからせる、理解させる」の意。(3)the other way roundで「あべこべに」の意。(4)分詞構文。makingを入れて「that(= Monday)を文の中で最も目立つ語にして」とすると文意が通る。(5)文のどの語を強調すべきかを判断する。「予約は4時だ」と言われた場合の応答なので、「3(時)」という情報を強調するのが自然。(6)beautifulに強勢を置いた場合、「美しくない娘さんではなく」ということが含意される。(7)strain to doは「～しようと懸命に努力する」の意。不適切な語を強調すると重

### 英語②

#### I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「人間の体毛について」。

(1)は下線部の語が本文中で用いられた理由を問う問題。前後の文脈から、人間のどのような特徴に焦点を当てているのかを読み取る。

(2)・(3)・(5)・(6)は、文脈を把握して空所を補う問題。(2)空所の前は「体毛の喪失の理由」、空所の後は「寄生虫を減らすこと〔ため〕』という内容。may have been「～であったかもしれない」が入る。(3)人間の頭髪の特徴が述べられている段落。uniqueは「独特の」の意。(5)identityは「一体性、同一性」の意。コンマ以下「特定の民族や集団への帰属を示すこと」が直前の語句の言い換えになっていると考え、答えを選ぶ。(6)closeはここでは副詞で「すぐ近くに」の意。ちょんまげの説明をしている文。

(4)・(7)・(8)は下線部の語句の意味を問う問題。類義語・類義表現の知識が問われている。

(9)は内容一致問題が2問。与えられた部分を読むと、2.はリード文に続く内容が問われているため、リード文と選択肢を合わせて読み込む必要がある。

#### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (10) needは助動詞で「～する必要がある」の意。通例否定文・疑問文で用いられる。
- (11) thatに続く部分が〈S + V〉となるように、had beenを入れる。〈find + O(+ to be) + C〉という用法もある。
- (12) 関係代名詞の非制限用法。「～までに」という期限を表すbyをwhichの前に置いたものが適切。
- (13) be動詞と形容詞の間に入るのは副詞のみ。mightyは「非常に」の意。
- (14) 要求、提案などを表す〈It is + 形容詞 + that節〉の文では、that節の中で仮定法現在が使われることがある。原形のcompleteが適切。

#### III

正しい語順は次の通り。

- (15) The event (was called off due to the spread of) coronavirus.
- (16) Which (is the one you said Henry liked best)?
- (17) On (behalf of this company I would like to) thank you all.
- (18) I (wonder who they have in mind for the) job.
- (19) The bride has just come down with flu, (which means that the wedding will be postponed).

要な語句から意識が逸れてしまうので、その語句を聞き取ろうと懸命に努力する必要があるということが述べられている。2つ目の例における重要な情報は、作曲者の名前。

(2)・(8)は下線部の語句の意味や意図を問う問題。(8)は下線部の前後の文脈を理解しているかが問われている。

(9)は内容一致問題が2問。問題文で、選択肢のキーワード(特に名詞)が該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

#### II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (10) hardlyで「ほとんど～ない」の意。
- (11) whatはここでは「～する…は何でも」の意で、whateverと置き換え可能。

- (12) 主節の時制は過去。関係詞節内の動作は主節よりも前に起きたことなので、過去完了が適切。  
 (13) 〈all the + 比較級 + for ...〉で「…のためにますます～」の意。  
 (14) 提案・要求を表す動詞は、目的語の that 節内に仮定法現在を用いる。

III

正しい語順は次の通り。

- (15) Any (child could make a better job of it) than this.  
 (16) Yesterday I (received an email from the mother of one) of my students.  
 (17) I would read books (all day if left to my own devices).  
 (18) You will (be informed of the company's decision in due) course.  
 (19) Every one of the (dozen cars that the mechanics had inspected was) defective.

英語②

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「睡眠の働き」。

- (1)・(2)・(4)・(6)・(7)・(8)は、文脈を把握して空所を補う問題。  
 (1)空所の前は「睡眠には重大な機能があるに違いない」、後は「睡眠は進化の過程で不要になっていだろう」という内容。otherwise「そうでなければ」が適切。(2)living ...と同様に imagine の目的語となる部分。動名詞が適切。(4)add up to ~で「合計～になる」の意。(6)a commonsense explanation「常識的な説明」と対になる less obvious「あまり明白でない」が適切。(7)本文の内容から、睡眠が何に役立っているか考える。effectively awake「効

果的に目覚める」が適切。(8)「寝ている間、体は( )するのに十分な働きしかしていない」という内容。stay alive「生きている」が適切。

(3)・(5)は下線部の語句の表す内容を問う問題。下線部の前後の文脈を理解しているかが問われている。

(9)は内容一致問題が2問。問題文で、選択肢のキーワード(特に名詞)が該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (10) 「釈放された」と受動態にすると文意が通る。  
 (11) some はここでは「およそ」の意。  
 (12) take in ~はここでは「～を理解する」の意の他動詞。疑問詞節内には目的語がないので、how much を入れる。  
 (13) 名詞の前に置けるのは even「～でさえ」と only「～だけ」。文意が通るのは even。  
 (14) 分詞構文。take ~ into account で「～を考慮に入れる」の意。

III

正しい語順は次の通り。

- (15) I would like to (propose doubling the number of workers in each) branch.  
 (16) I must (apologize for the delay in replying to your) letter.  
 (17) You will be (fined if you are caught leaving garbage on) the street.  
 (18) It was (then that I felt the need to improve) my English.  
 (9) He (quit his job because he wanted to spend) more time with his family.